

静岡市立病院

地元の医療を支える看護師を目指して

《地元医療への思いから志望へ》

私は令和7年度の就職活動を経て、内定をいただきました。私は〇〇市で生まれ育ち、家族や地域の方々に支えられてきた経験から、地元の医療に貢献したいという思いを強く抱いていました。住み慣れた地域で暮らす人々の健康と生活を支えたいという気持ちが、就職活動の大きな原動力となりました。

こうした思いから、私は当病院を第一志望として就職活動を進めました。同院は地域医療支援病院として急性期医療を担いながらも、患者さんの生活に寄り添った看護を実践している点に魅力を感じていました。



《病院見学で深まった志望の思い》

病院の理念や看護の特徴だけでなく、実際の臨床現場の雰囲気を実際の目で確かめたいと考え、病院説明会やオープンホスピタルに積極的に参加しました。見学を通して、看護師間の情報共有が丁寧かつ迅速に行われていることや、新人看護師にも真摯に向き合う姿勢が印象に残りました。

また、医療職者同士が互いの専門性を尊重しながらチームとして協働している姿に触れ、この病院で働きたいという思いはより確かなものとなりました。

《採用試験に向けた準備》

採用試験では面接と適性検査が中心であったため、限られた時間の中で自分の思いを的確に伝えられるよう準備を進めました。先輩方の報告書を参考に質問内容を予想し、これまでの学びや経験をどのように言語化するかを整理しました。

さらに、基本的なマナーや受け答えだけでなく、自分の価値観を深く見つめ直し、考えを明確に伝える練習を重ねたことで、自信を持って本番に臨むことができました。

《これからの目標》

内定をいただいた今、期待と同時に新しい環境で働くことへの緊張も感じています。これまで保健看護学部で学んできた知識や経験を活かしながら、一つ一つのケアに誠実に向き合い、患者さんに寄り添う姿勢を大切にしていきたいと考えています。

地域に根ざした病院の一員として責任感を持ち、これからも学び続ける姿勢を忘れず、地域医療に貢献できる看護師へと成長していきたいです。

患者に安心を届けられる看護師を目指して

《入院経験から芽生えた看護への思い》

私が順天堂大学附属病院を志望した大きな理由は、入院経験で出会った看護師の姿が強く心に残ったことです。痛みで不安が強かったとき、そっと体をさすりながら声をかけてくれたことで気持ちが落ち着き、「つらい記憶」よりも「支えてくれた人の安心感」が印象として残りました。入院中も定期的に声をかけに来てくれたことで、心理的に大きく支えられました。

この経験から、患者の一番近くで安心を届けられる看護に魅力を感じ、私もそのような環境で働きたいと思うようになりました。



《学び続けられる環境への魅力》

順天堂大学附属病院を志望したもう一つの理由は、専門・認定看護師が多く在籍し、資格取得支援制度や看護師特定行為研修センターなど、キャリアアップを後押しする体制が整っている点です。

学生時代に学会へ参加した際、認定看護師が専門性を生かして患者に関わる姿に触れ、大きな関心を持つようになりました。「働きながら専門性を高められる環境」という点で、順天堂大学附属病院は理想的な職場だと感じました。

《就職活動で取り組んだこと》

就職活動では、自己分析と面接対策に特に力を入れました。自分の考えを相手に伝えるためには、まず自分自身を理解することが大切だと考え、「どのような看護師になりたいのか」「病院へどのように貢献したいのか」を言語化していきました。

実習での学びや印象に残った患者との関わりを振り返り、自分ならではのエピソードとして整理することで、面接でも自分の言葉で伝えられるよう意識しました。面接練習はアドバイザーグループの教員に協力していただき、友人とも質問し合うことで新しい視点を得ることができました。また、小論文対策では教員の添削に加え AI も活用し、内容の整理や表現の見直しを行いました。

《これからの目標》

来年度から順天堂大学附属病院で看護師として働く予定です。まずは病棟で基礎をしっかりと身につけ、日々の経験の中で自分が深く学びたい分野を見つけていきたいと考えています。

将来的には認定看護師の取得を目指し、専門性を高めながら、一人ひとりの患者のニーズに寄り添った看護を実践できる看護師へ成長していきたいです。